

小野パラ五輪当確

帯広盲学校出

選手選考会 標準未突破も実績評価

100メートル背泳ぎ

【静岡県富士市】競泳の「静岡パラ・リオデジャネイロパラリンピック」(9月7〜18日)の選手選考を兼ねた春季静岡記録会(日本身体障がい者水泳連盟主催)は6日、静岡県富士市の静岡県富士水泳場で行われ、帯広盲学校出身で全盲の小野智華子(あいおいニッセイ)が、これまでの実績などが評価された。日本代表は5月以降、日本パラリンピック委員会の審査を経て正式に日本代表候補に選ばれ、2大会連続のパラリンピックに決定する。

帯広盲学校出身で全盲の小野は同種目で1分29秒56、50メートル自由形は36秒48と派遣標準記録を切らなかった。大会には204人が出場し、50メートル自由形で34秒43、100メートル自由形で1分15秒22と派遣標準記録に届かなかった。

大会には204人が出場し、50メートル自由形で34秒43、100メートル自由形で1分15秒22と派遣標準記録に届かなかった。

大会には204人が出場し、50メートル自由形で34秒43、100メートル自由形で1分15秒22と派遣標準記録に届かなかった。

反省生かし「リオでメダル」

パラリンピックの連続出場へ道はつなげたが、課題の残るレース内容だった。2012年のロンドンパラリンピックで8位に入賞した得意の100メートル背泳ぎで、1分29秒56と自己ベストの1分24秒19から5秒以上遅いタイムでフィニッシュ。「緊張していた。タ

イムは良くなかった。悔しいです」。1分28秒49の派遣標準記録に届かず、動揺する心を必死に抑えて言葉を絞り出した。

母の薫さん(帯広在住)が付き添い、小野のターン直前に棒の先で体にタッチして合図するタッパーの役目も務めた。リズム良く力

【女子100メートル背泳ぎ】力強いストロークで記録に挑んだ小野智華子。パラリンピック日本代表候補に選ばれ、2大会連続出場がほぼ確実に。



【女子50メートル自由形タッパーを務めた母の薫さん(右)に誘導されてスタート台に向かう小野智華子



て示しているリオの出場枠(男子12人、女子7人の計19人)に合わせて候補選手を選んだ。昨年の世界選手権で優勝し、代表候補が内定していた木村敬一(東京ガス)を含む6人が派遣標準記録を突破。残る13人は規定を基に選考委員会が決めた。

(松村智裕、大賀章好)

【男子】◇S8▽自由形50メートル(派遣標準記録27秒79) 34
横山航也(道教大函館校) 34
▽同100メートル(派遣標準記録1分15秒12) 1分15秒22
教大函館校) 1分15秒22
【女子】◇S11▽自由形50メートル(派遣標準記録34秒18) 36
小野智華子(あいおいニッセイ) 36
▽背泳ぎ100メートル(派遣標準記録1分28秒49) 1分29秒56
小野智華子(あいおいニッセイ) 1分29秒56

【管内関係分】

強いストロークを続け、タイムも決めたが「25歳までは良かったと思うけれど、その後は体力不足でバテてしまった」とレース後半に向けて失速。続く50メートル自由形も36秒48と自己記録に1秒ほど及ばなかった。

筑波大付属視覚特別支援学校(東京)の鍼灸(しんきゅう)手技療法科3年生。2月にあん摩マッサージ指圧師の国家試験があり、勉強のためプールに入る時間に制限された。2月29日から

大会直前の3月5日まで実家のある帯広で過ごし、午前十後の2部練習をこなした。帯広には同校の寺西真人コーチも2日間訪れたが、コンディションは仕上げ切れなかった。

7歳で始めた水泳は競技歴14年。昨年7月の世界選手権(英国)では100メートル背泳ぎで4位となり、日本身体障がい者水泳連盟から、最上級のS(計2人)に次ぐA(計8人)の強化指定選手に選ばれた。

【男子100メートル自由形】S8クラスに出場し、1分15秒22で泳ぎ切った横山航也

横山(帯柏葉出身)は4年後照準



派遣標準記録には2種目とも届かなかった。それでも横山航也はさすがらしい表情だった。「高校2年で自己ベストが出てから、受験勉強後にタイムが落ちていた。きょうはようやくベストに近いタイムが出せた」と手応えをつかんだ。得意の100メートル自由形。小学5年生のときに交通事故で両足に障害を負い、それでも楽しめたスポーツが水泳だった。現在は週6日の練習をこなし、1日2時間で4500メートルを泳いで

隣のレーンには昨年9月のジャパンパラ競技大会(東京)で優勝を奪われた吉田侑生(福岡市)がいた。闘志をむき出しにして力強く水をかいたが、最後は6秒近く離れた。「以前はそれほど差がなかった。次は勝ちたい」と同世代のライバルに照準を定める。

小学5年生のときに交通事故で両足に障害を負い、それでも楽しめたスポーツが水泳だった。現在は週6日の練習をこなし、1日2時間で4500メートルを泳いで

スタミナを養う。大学の水泳部の仲間からアドバイスを受け、脚の力が弱い分、両手をいかに無駄なく水中でかけるかを模索し、フォームを進化させている。

出身地の後志管内ニセコ町から両親、暮別町から祖母と兄が訪れて応援。「緊張がほぐれて、水泳に集中できた」と感謝した。来月から大学4年生。「これからどれだけタイムを伸ばせるか分からないが、東京パラリンピック(の日本代表)に何とか食い込めるように頑張りたい」。4年後を目前にする横山は笑顔で誓った。